

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	札幌大学
設置者名	学校法人札幌大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
地域共創学群	人間社会学域	夜・通信	14		114	128	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

【ホームページ】 https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/disclosure.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌大学
設置者名	学校法人札幌大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

【ホームページ】札幌大学 TOP>札幌大学について>学校法人札幌大学 ○「役員等名簿」役員（理事・監事） https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/organization.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社役員	2025.6.11～ 4年以内に終了する 会計年度のうち最 終のものに関する 定時評議員会の終 結のときまで	経営計画の策定
非常勤	株式会社役員	2025.6.11～ 4年以内に終了する 会計年度のうち最 終のものに関する 定時評議員会の終 結のときまで	組織運営体制への チェック機能
(備考) 学外者：4名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌大学
設置者名	学校法人札幌大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 12月、授業科目担当者に対し記載すべき事項を示した「シラバス入稿要領」を配布し、シラバス作成を依頼している。 「成績評価」項目は、規程に則りかつ評価割合を明記するよう依頼するとともに具体例と成績評価基準を示している。 【シラバス記載事項】 ①テーマ、②到達目標、③授業概要、④授業計画、⑤事前学修、⑥事後学修、⑦成績評価、⑧試験、レポート等についての講評、⑨テキスト、⑩参考文献、⑪特記事項、⑫オフィスアワー、⑬実務経験、⑭ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連性(予め入稿フォームに登録済み) 1月末の入稿期限後、学長を総責任者としたシラバス確認作業の体制をとり、全授業科目のシラバス点検を実施している。 【確認体制】 総責任者：学長 実務責任者：教務担当副学長、学務部長 点検担当者：教務担当副学長、総合教育学系長、専攻長、教職委員長 以上の過程を経て、3月中旬頃に本学ホームページで公開し、1年次開設科目については冊子を作成し、新入生ガイダンス時に配布している。	
授業計画書の公表方法	【ホームページ】シラバス https://syllabus.sapporo-u.ac.jp/index.html 【総合学生支援システム(アイトス)】シラバス 【印刷物】講義要綱(シラバス) ※新入生のみガイダンス時に配布
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

札幌大学学則第 25 条において、「履修した授業科目については、試験を行い、学業成績を考査する。試験は筆記、口頭、実技及びレポートによって行う。」と規定している。

また、札幌大学学則第 26 条に「学業の評価、成績評価基準及び単位の授与」について規定しており、シラバスに「授業計画」及び「成績評価」等を明記し、学生に周知している。

シラバスの授業計画に基づき、試験を行い、評価、単位の認定を行っている。

【札幌大学学則】

(試験)

第 25 条 履修した授業科目については、試験を行い、学業成績を考査する。

2 試験は、筆記、口頭、実技及びレポートによって行う。ただし、平常点によってこれを代えることがある。

(学業の評価、成績評価基準及び単位の授与)

第 26 条 学業成績は、A A、A、B、C、D 及び E に分け、A A、A、B 及び C を合格とする。

点 数	評 価	
100～90	A A	合格
89～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59以下	D	不合格
未受験等	E	

2 合格した授業科目については、所定の単位を与える。

3 前項の成績は、学生に通知する。

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 札幌大学学則第 26 条において、「学業成績は、A A、A、B、C、D 及び E に分け、A A、A、B 及び C を合格とし、合格した授業科目については、所定の単位を与える。」と定めている。 また、札幌大学履修に関する規程第 18 条の 2 において、「学業成績による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点 (G P A) を用いる。G P A は、学業成績のうち、A Aにつき 4.0、Aにつき 3.0、Bにつき 2.0、Cにつき 1.0、D 及び E につき 0 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、登録科目の総単位数で除して算出する。」と客観的な指標を設定し、添付資料のとおり、成績の分布状況を把握している。 なお、同規程において G P A 算出の対象としない授業科目を以下のとおり定めている。 ・教職に関する科目 ・学芸員の資格を得させるための科目 ・日本語教師養成課程に関する次の科目 「日本語教授法Ⅱ」「日本語教材・教具論」「日本語教育実習」 ・自由科目	
客観的な指標の算出方法の公表方法	【ホームページ】成績評価・G P A 制度について https://www.sapporo-u.ac.jp/students/support-study.html#sp2 【規程】札幌大学履修に関する規程 【印刷物】履修のてびき
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー] 建学の精神「生気あふれる開拓者精神」のもと、「地域共創」の理念を体現し、教育目標に謳われる「生気に溢れ、知性豊かな、信頼される人間」に成長し、以下に掲げる資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 D P 1 : 専門分野についての理解を深め、必要な知識と技能を身につけている D P 2 : 関連する分野についての知識と技能を身につけている D P 3 : 必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できる D P 4 : 修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができる D P 5 : 未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができる D P 6 : 他者を尊重し、多様な価値を認めることができる 以上のように全学のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページ及び履修のてびきにおいて公表している。なお、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、専攻毎のディプロマ・ポリシーを定めている。 また、ディプロマ・ポリシーを踏まえた全学及び専攻毎のカリキュラム・ポリシーを策定しており、これに基づき各専攻の教育課程表を定め、公表している。2 月末及び 8 月末には各専攻の教育課程表に示す卒業要件に基づき、教務委員会及び教育研究協議会（本学における教授会）において卒業判定を行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	【ホームページ】学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー] https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/policy.html 【印刷物】履修のてびき

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	札幌大学
設置者名	学校法人札幌大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/disclosure.html#zaimu
収支計算書又は損益計算書	https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/disclosure.html#zaimu
財産目録	https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/disclosure.html#zaimu
事業報告書	https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/organization.html#report
監事による監査報告(書)	https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/disclosure.html#zaimu

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2026(令和8)年度事業計画 対象年度:2026年度)
公表方法:【ホームページ】札幌大学について>学校法人札幌大学 「2025(令和7)年度事業報告書」内、第2編「2026(令和8)年度事業現況」に掲載 https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/organization/#report
中長期計画(名称:札幌大学中期構想 札幌みらいフロンティア・プラン 対象年度:2023年度~2027年度)
公表方法:【ホームページ】 https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/organization.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/evaluation.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/evaluation.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 地域共創学群
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） 【ホームページ】 教育研究上の基礎的な情報 https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/disclosure.html 経済学専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/economics.html#cp_kz 経営学専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/business-administration.html#cp_ke 法学専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/law.html#cp_hg 英語専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/english.html#cp_en ロシア語専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/past-major-russian.html#cp_rus 歴史文化専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/history-culture.html#cp_his 日本語・日本文化専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/japanese-culture.html#cp_jp スポーツ文化専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/sports.html#cp_sp リベラルアーツ専攻 https://www.sapporo-u.ac.jp/department/liberalarts.html#cp_lb 建学の精神・教育目標・教育方針 https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/spirit.html
(概要) 建学の精神「生气あふれる開拓者精神」のもと、次の 3 つの教育目標とそれに連なる 5 つの教育方針を掲げ、教育改革、研究活動や社会貢献の推進、学生サービスの向上を目指している。 教育目標 本学は建学の精神に基づき、生气に溢れ、知性豊かな、信頼される人間を育成し、もって地域社会の発展に貢献することを目的としています。 ・「生气あふれる人間」の育成 ・「知性豊かな人間」の育成 ・「信頼される人間」の育成 教育方針 ・北海道から世界へはばたく、視野の広い人間を育てます。 ・個性をみがき、夢の実現を目指す人間を育てます。 ・幅広い教養をもち、人生を豊かにできる人間を育てます。 ・地域を愛し、社会貢献の意欲に富んだ人間を育てます。 ・環境に配慮し、未来に責任をもつ人間を育てます。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） 【ホームページ】 札幌大学 学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー] https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/policy.html

(概要) 学位授与の方針〔ディプロマ・ポリシー〕 建学の精神「生气あふれる開拓者精神」のもと、「地域共創」の理念を体現し、教育目標に謳われる「生气に溢れ、知性豊かな、信頼される人間」に成長し、以下に掲げる資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 DP1：専門分野についての理解を深め、必要な知識と技能を身につけている DP2：関連する分野についての知識と技能を身につけている DP3：必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できる DP4：修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができる DP5：未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができる DP6：他者を尊重し、多様な価値を認めることができる 以上のように全学のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページ及び履修のてびきにおいて公表している。なお、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、専攻毎のディプロマ・ポリシーを定めている。 また、ディプロマ・ポリシーを踏まえた全学及び専攻毎のカリキュラム・ポリシーを策定しており、これに基づき各専攻の教育課程表を定め、公表している。2月末及び8月末には各専攻の教育課程表に示す卒業要件に基づき、教務委員会及び教育研究協議会（本学における教授会）において卒業判定を行っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） 【ホームページ】札幌大学 教育課程編成・実施の方針〔カリキュラム・ポリシー〕 https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/policy.html
(概要) 学位授与の方針を踏まえ、自由な学びを通じて主体性を育み、総合的な教養を涵養するために、以下の方針に基づき教育課程を編成します。 なお、単位認定にあたっては成績評価基準に基づく厳格な評価を行います。 CP1：全学共通の基盤教育科目と全学に開放された専門科目を配置し、多様な学びを提供します。 CP2：基盤教育科目では、豊かな教養とグローバル社会に対応できる語学力、社会人としての基礎知識を身につけるための科目を配置します。 CP3：専門科目では、主専攻の深い専門性を担保する科目を配置すると共に、副専攻をも視野に入れた専攻の枠にとらわれない科目群を提供します。 CP4：地域を共に創造する「地域共創」の理念を、自ら考え行動し体験知として身につけるため、アクティブラーニングを重視します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入学者選抜要項）
(概要) 札幌大学では、豊かな教養と確かな実践力を備え、他者と協力し、未来を切り拓き、地域や世界へはばたこうとする意欲的で多様な価値観をもつ学生を求めています。 そのため、以下のような資質・能力・意欲を持った人物を入学者として受け入れています。 知識・技能 AP1. 高等学校等で履修した教科科目について、基礎的な学力を持ち、得意な教科科目を有している。 AP2. 検定試験等を受験し、資格等を有している。 AP3. 日本語で正確に「読む」、「書く」、「話す」ことができる。 AP4. 社会的関心を有している。 AP5. 特技を有している。 思考力・判断力・表現力 AP6. 課題を自ら発見し、その解決に向けて取り組むことができる。

・シリーズ「生成 AI で変わる教育と学び」総括 ・合理的配慮の基礎と実際
③学生による授業改善アンケート調査（春学期中間・期末、秋学期中間・期末の年 4 回実施）
④学系 FD ミーティング
⑤学生と学長による懇談会（1 回開催）
⑥学生 FD 委員会「札大おこし隊」（新入生サポート、学生の意見交換会開催、新入生向けサポート冊子作製）
【2026 年度 活動予定】
①学内研修（アクティブ・ラーニングまたはピアレビュー、ICT 教育の推進、その他）
②学外機関主催セミナー等への参加
③学生による授業改善アンケート調査（春学期中間・期末、秋学期中間・期末の年 4 回実施）
④学系 FD ミーティング
⑤学生と学長による懇談会
⑥学生 FD 委員会「札大おこし隊」（新入生向けサポート窓口、学生の居場所・空間づくり、授業改善アンケートの学生認知度向上、学生と教職員の意見交換会）
⑦その他、本学の教育改善に必要と認める FD

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
地域共創学群	800 人	734 人	91.8%	3200 人	2867 人	89.6%	若干名	6 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	人	人	%	人	人	%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
地域共創学群	645 人 (100%)	3 人 (0.5%)	573 人 (88.8%)	69 人 (10.7%)
合計	645 人 (100%)	3 人 (0.5%)	573 人 (88.8%)	69 人 (10.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：北海道大学大学院、京都大学大学院、北海道医療大学 就職先：ANA 新千歳空港、イオン北海道、ニトリ、アインホールディングス、ケイシーシー、サッポロドラッグストアー、北海道伊藤園、北海道コカ・コーラボトリング、北海道新聞社、北海道日立、北海電工、エン、資生堂ジャパン、日本赤十字、加森観光、東武トップツアーズ、日本郵便、国家一般職、北海道職員、市町村職員、自治体消防、都道府県警察、公立・私立学校教員 など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
地域共創学群	796人 (100%)	579人 (72.7%)	64人 (8%)	102人 (12.8%)	51人 (6.4%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	796人 (100%)	579人 (72.7%)	64人 (8%)	102人 (12.8%)	51人 (6.4%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 12月、授業科目担当者に対し記載すべき事項を示した「シラバス入稿要領」を配布し、シラバス作成を依頼している。 「成績評価」項目は、規程に則りかつ評価割合を明記するよう依頼するとともに具体例と成績評価基準を示している。 【シラバス記載事項】 ①テーマ、②到達目標、③授業概要、④授業計画、⑤事前学修、⑥事後学修、⑦成績評価、⑧試験、レポート等についての講評、⑨テキスト、⑩参考文献、⑪特記事項、⑫オフィスアワー、⑬実務経験、⑭ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連性（予め入稿フォームに登録済み） 1月末の入稿期限後、学長を総責任者としたシラバス確認作業の体制をとり、全授業科目のシラバス点検を実施している。 【確認体制】 総責任者：学長 実務責任者：教務担当副学長、学務部長 点検担当者：教務担当副学長、総合教育学系長、専攻長、教職委員長 以上の過程を経て、3月中旬頃に本学ホームページで公開し、1年次開設科目については冊子を作成し、新入生ガイダンス時に配布している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 札幌大学学則第25条において、「履修した授業科目については、試験を行い、学業成績を考査する。試験は筆記、口頭、実技及びレポートによって行う。」と規定している。 また、札幌大学学則第26条に「学業の評価、成績評価基準及び単位の授与」について規定しており、シラバスに「授業計画」及び「成績評価」等を明記し、学生に周知している。 シラバスの授業計画に基づき、試験を行い、評価、単位の認定を行っている。
--

【札幌大学学則】

(試験)

第 25 条 履修した授業科目については、試験を行い、学業成績を考査する。

2 試験は、筆記、口頭、実技及びレポートによって行う。ただし、平常点によってこれを代えることがある。

(学業の評価、成績評価基準及び単位の授与)

第 26 条 学業成績は、A A、A、B、C、D 及び E に分け、A A、A、B 及び C を合格とする。

点 数

評 価

100～90

A A

89～80

A

79～70

B

69～60

C

59以下

D

未受験等

E

合格

不合格

2 合格した授業科目については、所定の単位を与える。

3 前項の成績は、学生に通知する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
地域共創学群	人間社会学域 (2023 年度入学生 まで)	1 2 4 単位	⑦・無	4 0 単位 (半期 2 0 単位)
	人間社会学域 (2024 年度入学生 から)	1 2 4 単位	⑦・無	4 8 単位 (半期 2 4 単位)
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.sapporo-u.ac.jp/students/support-study.html 札幌大学学則及び札幌大学履修に関する規程に基づき、各評価に GP を与え、各セメスター及び通算の GPA を算出している。 各セメスターの履修限度単位数を 2023 年度以前の入学生は 20 単位、2024 年度以降の入学生は 24 単位に定めているが、前の学期の GPA が基準を超えた場合、履修限度単位数を緩和している。 また、本学独自の奨学金選考の際にも活用している。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学 HP (<https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/campus/>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
地域共創 学群	人間社会 学域	770,000 円	200,000 円	130,000 円	令和 2 年度以降入学生（1 年次） その他の内訳：教育充実費（10,000 円）、施設設備費（120,000 円）
	人間社会 学域	770,000 円	円	170,000 円	令和 2 年度以降入学生（2 年次以上） その他の内訳：教育充実費（50,000 円）、施設設備費（120,000 円）
	人間社会 学域	770,000 円	円	120,000 円	令和元年度以前入学生 その他の内訳：施設設備費（120,000 円）
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 【学修サポートセンターによる支援】 基礎学力が不足している学生に対して、基礎的な内容の定着と意欲の向上を図る取組を継続的に実施している。同時に目指す進路に向けて、参加者個々の力量向上を支援する取組を行っている。 【専攻選択のサポート】 学生が繰り返し、専攻の内容を確認できるように各専攻の紹介動画を制作し、1 年生に配信している。 また、アドバイザー教員、教務課において、ゼミナール選考や専攻選択に係る相談に随時対応している。 【成績不良者のサポート】 通算修得単位数が一定の基準を下回り、前セメスターの GPA が 1.0 未満の学生を対象に個別の履修相談を実施しており、教務課職員が履修状況や単位修得、学生生活などについて、計画的に進められるようサポートしている。 【出席不良者へのサポート】 教員や教務委員等に定期的に学生の出席状況を共有し、出席率が思わしくない学生に対し個人面談を実施している。 【保護者との情報共有・連携】 学生の履修状況、出席状況、学業成績を保護者と共有しており、大学と保護者間のタイムリーな情報共有・連携による学生サポート体制を構築している。 【休学者に対するサポート】 休学者及びその保護者に対し「授業・単位・卒業」、「奨学金・学費」、「心身の不

調・日常生活の悩み」、「今後の進路・就職」など、不安や疑問に対応する体制を整えている旨を案内しており、各種相談に随時対応している。

【自学自習ツールの提供】

基礎学力の維持・向上を目的に5教科（国語・数学・理科・社会・英語）を効率よく学べる自学自習ツールを提供している。

また、就職筆記試験対策（SPI等）のためのeラーニング教材や、希望者に対し英語力向上のための自学自習ツールを提供している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

【キャリアサポートセンター】

個人面談：学年問わず、将来についての相談をいつでも受け付けしている。進路についての悩みや不安はもちろん、履歴書の書き方、面接の練習なども対面・オンラインで応じている。卒業後も利用可能。

資格・検定・公務員試験の受験対策講座：多くの講座は学内で開講し、受講料は安く設定している。合格者へのキャッシュバック制度があり、学生の意欲向上に繋がっている。卒業後2年未満の卒業生も資格・検定が受講できる。

【インターンシップ・職場体験等】

派遣先は「北海道地域インターンシップ推進協議会」を通じた企業の他に、学生の選択肢が広がるよう積極的に大学が受け入れ先を開拓している。ガイダンスやマナー講座も実施しており、インターンシップ・職場体験等の拡大・充実を図っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

ガイダンスオリエンテーションの際に「新入生健康調査(UPI)」を新入生全員対象に実施し、ハイリスク学生には配信で学生相談室への来室を促している。学生の面談は常時受け付けており年間200件程度の相談に対応している。必要に応じて継続面談や医療機関の紹介、外部機関との連携とも行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：【ホームページ】教育研究上の基礎的な情報

<https://www.sapporo-u.ac.jp/univ-guide/disclosure.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F101310100141
学校名（○○大学 等）	札幌大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人札幌大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		698人（ 342）人	683人（ 316）人	729人（ 355）人
内 訳	第Ⅰ区分	261人	255人	
	（うち多子世帯）	（ 49人）	（ 34人）	
	第Ⅱ区分	114人	104人	
	（うち多子世帯）	（ 18人）	（ 10人）	
	第Ⅲ区分	59人	62人	
	（うち多子世帯）	（ 11人）	（ 10人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	85人	75人	
	区分外（多子世帯）	179人	187人	
家計急変による 支援対象者（年間）				6人（ 1）人
合計（年間）				735人（ 356）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	14人		
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲 が著しく低い状況	26人		
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	20人		
計	50人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	-	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-		

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	-		
GPA等が下位4分の1	74人		
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	122人		
計	148人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。